

群馬県立文書館 教材活用史料詳細カード 2

請求番号	P09303	文書番号	77-3	年代	平安時代（江戸時代）
史料名	源氏物語 卷三 若紫・末摘花				
形態	和本（木版）	複製	あり	・なし	（ ）
備考	寄贈の古文書（高山英子家文書）				
史料概要	西暦 1000 年頃（平安時代）に紫式部によって書かれた長大な「源氏物語」のうち、教科書に本文が掲載されることの多い「若紫」巻が収録された版本。学習者と年齢の近い、18 歳ほどの源氏と 10 歳ほどの姫君・若紫との出会い等が、挿絵とともに書かれている。小型本であるため普及していたことが伺われる。年代は不明であるが、江戸時代の群馬県内でも、同じような版本の「源氏物語」が読まれていたと考えられる。				
指導要領（内容）との関連	<小 6> (2) - ア- (ウ) 貴族の生活や文化 (2) - ア- (ク) 江戸時代の文化 <中 歴> B - (1) -ア- (エ) 文化の国風化 B - (3) -ア- (ウ) 江戸時代の産業の発達と文化 <高日探> B - (3) -ア- (イ) 平安期の文化 C - (3) -ア- (イ) 近世の文化				
活 用 例					
活用単元	文化の国風化および江戸時代の文化				
活用場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>平安時代の文化および江戸時代の文化について学ぶ場面で活用。</li> </ul>				
活用方法	(文化の国風化についての学習) <ul style="list-style-type: none"> <li>ひらがなの成立や、宮廷で女性による文芸活動が盛んになったことがわかる史料として提示する。この時代の代表的作品である「源氏物語」は後世、様々な分野に大きな影響を与え、江戸時代には出版物として広まり、群馬県でも読まれていたことなどへも考えを広げることができる。</li> </ul> (近世の文化についての学習) <ul style="list-style-type: none"> <li>寺子屋等で庶民も読み書きの能力を身につけるようになり、木版印刷の普及と相まって、多くの本・印刷物が出版されたことがわかる史料として提示する。王朝文化や国文学への関心が高まって「源氏物語」等の古典も流通し、群馬県の人々も読んでいたこと、多くの人を読み書きを行う情報社会が誕生したことへも考えを広げることができる。</li> </ul>				
予想される生徒児童の反応等	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のページを見ていくことで、平安時代は今も読み継がれる文学作品が誕生した時代であること、江戸時代は大衆が印刷物を介して様々な情報を得るといふ、現代と同じような社会の始まりであることを理解できると思われる。</li> </ul>				

源氏物語 卷三 若紫・末摘花 (P09303 77-3) 江戸時代以降

源氏が若紫を見いだす場面



源氏が藤壺宮（父帝の後）と密会する場面

